

小学校・国語科「もしものために、防災リーフレットをつくろう」（4年生）

設問 2 (2)

●領域 「B 書くこと」

●評価 思考・判断・表現

<出題の趣旨>

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

●調査結果

平均 正答率	自校	千葉県	全国	無解答率	自校	千葉県	全国
		54.4%	56.6%			5.7%	4.9%

●身に付けさせたい力

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【課題】

自分の考えとそれを裏付ける事実とを区別して文章を書くことが求められる記述式問題であるが、正答率が54.4%と低く、無解答率も比較的高い状況となった。

誤答の解答類型を分析すると、「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いているが、「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いていない解答の割合が高いことがわかった。

このことから、自分の考えと考えを支える理由と事例の関係を明確にし、それぞれを書く活動を意図的に取り入れた授業実践アイデア例を提案する。

授業改善案

- ①学習意欲を高める題材設定の工夫
- ②言語活動を通して自分の考えを形成する学習過程の設定

「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」は「B 書くこと」第3学年及び第4学年「考えの形成、記述」で示されています。つまり、3・4年生での授業改善がポイントですね。

「書くこと」への苦手意識

- ・何を書けばよいかわからない【内容】
- ・何を調べたらよいかわからない【情報収集】
- ・「事実」と「感想」、「意見」の区別がつかない【情報整理】
- ・どのように書けばよいかわからない【構成・記述】
- ・誰に伝えるものか明確になっていない【相手意識】
- ・書く目的が明確になっていない【目的意識】



教科等横断的な学習の活用例

算数 「折れ線グラフ」「調べ方と整理の仕方」

理科 「天気と気温」「雨水のゆくえ」

国語 「もしものために、防災リーフレットをつくろう」

総合 「わたしたちの防災」

社会 「自然災害にそなえるまちづくり」



☆「書くこと」への苦手意識は、様々な要因が考えられます。児童の実態を把握し、学習過程を児童と共有した上で「書くこと」の内容を明確にして児童が「書きたい」と思えるような題材を設定しましょう。

☆発問や教材・教具を工夫し、自分の考えや調べたことが書けるように手立てを講じましょう。

☆教師主導ではなく、言語活動を通して、児童が自分の考えを形成できるよう、学習過程を設定しましょう。

学習指導要領「B 書くこと」領域の構成

学習過程	(1)指導事項			(2)言語活動例		
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
書くこと	題材の設定	ア	ア	ア	ウ	ア、ウ
	情報の収集			イ	ウ	イ、ウ
	内容の検討			ア	ウ	ア
	構成の検討	イ	イ	イ	ウ	イ
考えの形成		ウ	ウ	イ	ウ	イ
	記述			イ	ウ	イ
推敲	エ	エ	オ			
共有	オ	オ	カ			

見いだす -学習の見通し・題材の設定-

第1・2時 ○学習の見通し・題材の設定

- 知っている災害について話し合い、どのような災害か、どのような被害が出るか考える。
- 活動の目的を確認し、教師のモデルリーフレットをもとに、学習の見通しをもつ。
- どんなリーフレットが効果的か検討する。
- 学習計画を立て、単元のゴールまでの流れを確認する。



《外側》



《内側》



授業改善のポイント

指導者がモデルを事前に作成し、学習過程や学習活動のゴールイメージを見童と共有し、見童の「主体的な学び」へとつなげましょう。

相手意識、目的意識を明確にすることで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しようとする意識付けとなります。

	リーフレット	パンフレット
仕様	・1枚刷りの紙を2つ折りや3つ折りにして使用。	・複数枚の紙を製本している。
特徴	・折ることで複数の面に分けて情報を伝えられる。 ・1枚の紙で要点を簡潔にまとめられる。	・情報量が多い。 ・詳しい情報をページごとに記載できる。



身に付けたい力に適した言語活動を設定することが大切です。

見童自身が課題を見いだせるよう、教科等横断的な学習を活用し、他教科と関連付けたり、見童が高い防災意識をもてるような授業の導入を工夫したりしましょう。

対象と目的を明確にし、自分のリーフレットが他者に読まれるということを意識付け、どのようなリーフレットを作成するか見通しをもたせましょう。

教師が作成したモデルリーフレットを提示し、見童に見通しをもたせることが大切です。その際に、複数のモデルを見童に提示し、どんなリーフレットが効果的か見童と共有しましょう。書く活動は、見童が苦手意識をもちやすいので、ゴールまでの流れをしっかりと共有するとともに、見童自身が課題解決できるよう、掲示物の作成やICTの活用等、手立てを講じましょう。

リーフレットづくりは、見童にとって新鮮な気持ちで取り組むことができ、意欲的に「書く活動」に取り組むことができます。テーマをもとに、「自分の考え」と「理由と事例」をリーフレットに書くことをしっかりと押さえ、楽しく活動しましょう。

災害をテーマに調べる場合は、ショッキングな映像が流れる場合があるので、教師が事前に参考となるサイトを調べておくとういことです。

自分で取り組む

第3・4時

○題材を決定し、インターネットや本で情報収集を行い、ワークシートにまとめ、整理する。（1人1台端末の利用）

○ワークシートをもとに組み立て表を書く。

授業改善のポイント

題材を決定する際に条件を示す（自分の考えや災害の影響を考えることができる等）ことで、次時以降の活動へとつながる題材となります。

情報サイトや図書資料について、教師が精選したものを用意することが、情報収集の苦手な児童への手立てとなります。



問 題 文 を こ の 欄 に 書 き こ え	(讀んでよむ) [目] (見出し)	(讀んでよむ) (見出し)	(讀んでよむ) (見出し)	(讀んでよむ) (見出し)
↓				
だから／そのため／そこで				
↓				
考えをまとめること (自分にとって大切なこと／自分にできること／今後長をつけたいこと)				
思 ひ を こ の 欄 に 書 き こ え				
ほ の め の こ と を こ の 欄 に 書 き こ え	(はじめ) (見出し)	(終わり) (見出し)		

第5～7時

○組み立て表をもとに、グループで話し合う。（1人1台端末の利用）



付箋ワーク等で「テーマに合った内容となっているか」「読み手にとって役立つ内容か」、グループで話し合ってみましょう。

組み立て表からリーフレットを作るのに、どこに何を書けばいいのかな。

デザインやレイアウトは
どうしようかな。



○組み立て表をもとに原稿を作成する。

授業改善のポイント

組み立て表をもとに、自分の考え（はじめと終わり）と調べたこと（考えを支える理由と事例）の関係を明確にし、それぞれを区別して原稿を作成しましょう。

[illegible]

「書く活動」では端末のキーボードで入力する、または、手書きしたい児童はタッチペンを用いて直接入力する、あるいは、手書きしたものを画像として利用する等、児童の「書きたい」気持ちを大切にしたい活動となるよう配慮しましょう。

読み手を引きつけるリーフレットにするにはどうすればよいかを児童に考えさせ、目を引く効果的なレイアウトにしましょう。レイアウトが決まれば、あとは自分の考え（はじめと終わり）と調べたこと（考えを支える理由と事例）をレイアウトに当てはめるだけです。

オフィスアプリケーションの文書作成アプリやプレゼンテーションアプリ、他にもグラフィックデザインツール等のテンプレートを活用するとよいですね。

広げ深める -推敲-

第8時

○推敲



リーフレットの作成にあたり、紙に手書きしている児童は、画像をグループ内で共有しましょう。

○グループで原稿を読み合い、意見を伝え合う。

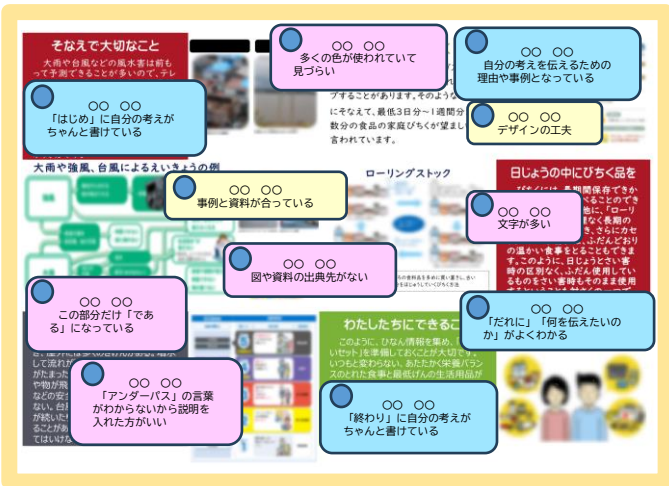
(1人1台端末の利用)

○友達の意見を参考に、自分の文章を推敲する。

授業改善のポイント

作成したリーフレットについて、学習活動端末支援Webシステムで共有したり、クラウドサービス、オンライン無料デザインアプリで共同編集したりして、評価カードや付箋、コメント機能を活用して、グループで共有し、意見を伝え合しましょう。グループで共有することで、児童の問題意識を高め、「対話的な学び」へとつながります。

グループで共有する際は、内容に焦点をあて、「相手意識」「目的意識」の視点を持ち、自分の考えと調べたことが文章に書かれているか確認できるようにしましょう。



まとめあげる -清書、共有、振り返り-

第9時

○清書

○自分の考え（はじめと終わり）と調べたこと（考えを支える理由と事例）の関係を明確にし、リーフレットを仕上げる。



端末を活用することで、文章の修正が容易にでき、文章を書き直す負担が減ります。

本時の振り返りから、リーフレットの完成への達成感と「文章が書けるようになってきた」という成功体験を積むことができます。

第10・11時

○共有・振り返り



○全体でリーフレットを紹介する活動を行い、学習を振り返る。

「学習の振り返りを書きましょう」では、児童は何を書けばよいかわかりません。教師がしっかりと振り返りの視点を持ち、児童に示しましょう。

1 振り返りの意義を確認し、「何」を振り返ればよいのか具体的に助言する

【振り返りの視点の例】

- ☆学びの過程・変容 ☆新たな疑問 ☆他者との交流 ☆単元・他教科・生活への活用等
- 2 学びを深める振り返りは学級全体で共有し、良い点を示す

共同編集ツールを活用すると、1単位時間の振り返りや単元全体の振り返りを共有することができます。

授業改善のポイント

「振り返り」を通して、自らの学びを意味付けたり、価値付けたり、共有したりすることで、肯定的な感覚や感情を得ることが出来ます。その繰り返しが、自ら学び続ける児童の育成につながります。

